

「あなたと、あなたをつなぐ橋」

レインボーブリッジ開通30年の歴史を振り返る展示とともに、写真家・濱田英明氏が撮り下ろした、レインボーブリッジがつむぐオリジナルストーリーの写真展を開催します。



2023.8.24 THU - 27 SUN OPEN 10:00 / CLOSE 17:00

【会場】日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 1階 コミュニケーションロビー **入場無料**

※日本科学未来館の特別展、常設展、ドームシアターへの入場には入館料が必要です。

謎解きイベント

「幻の放送局!? RAINBOW RADIO STATIONを探せ!」

—— レインボーブリッジ周辺を歩きながら、謎を解く体験型イベント ——

当日すぐに参加OK

参加無料

記念展会場でキットを配布

※キットはなくなり次第終了です。

ある夏の日、今日もお台場周辺を気分良くドライブしていると、ラジオからはこの時間いつも聴いている番組が流れている。ドライブコースであるレインボーブリッジに差しかけた頃、突然、流れる音声が乱れ始めた……。それは、聴いたことのない声、聴いたことのないエピソード。このラジオの目的は一体!?



会場マップ



あなたと、あなたをつなぐ橋

A bridge between you and you

上京した時、東京の街の大きさに驚いた。初めてのデートで遅刻した。まだ何もなかったお台場が仕事場だった。家族が増えて車で走った。この橋を渡った30年、若かったあなたもすっかりと大人になった。

いつの時もレインボーブリッジを渡ると、ここが東京だと思った。渡った先には、いつかの、そしてこれからのあなたがいる。

これは、レインボーブリッジがつなぐ、あなたの物語。

2023年8月26日

レインボーブリッジ開通30周年

記念ライトアップ

普段は白色でライトアップされているレインボーブリッジですが開通30周年を記念し、期間限定のスペシャルカラーで彩ります。この機会に特別な夜景をお楽しみください。



2023.8.19 SAT - 27 SUN

日没 約30分後から24時まで

レインボーブリッジ主塔登頂ツアー

普段は立ち入ることができないレインボーブリッジの主塔の頂上へ、開通30周年を記念し、特別にご案内します。高さ126mの主塔から、お台場や東京都心の絶景をお楽しみください。



2023.8.26 SAT

午前の部 / 10:00~12:00
午後の部 / 14:00~16:00

参加無料

要予約

※応募者多数の場合は抽選となります。

お申込み・詳細はこちらから



あの日のふたりが、僕らを見守っている。

あなたと、あなたをつなぐ橋
A bridge between you and you

30TH

ANNIVERSARY
RAINBOW BRIDGE

主催 首都高速道路株式会社

共催 (一社) 東京臨海副都心まちづくり協議会

RAINBOW BRIDGE

レインボーブリッジ

レインボーブリッジは東京都心と臨海副都心をつなぐ吊橋です。高連11号台場線・臨海道路・臨海新交通システム「ゆりかもめ」から構成された橋で、2023年8月に開通30周年を迎えます。

東京の臨海部を背景に、吊橋の特性を生かした広がりや伸びやかさの中に優美な容姿を印象づけるよう、真っ直ぐな主塔と橋脚の垂直線に対して、全体は柔らかな曲線を配しています。



1987.1

「東京港連絡橋」着工

1993.8

レインボーブリッジ開通

1995.11

東京臨海新交通臨海線「ゆりかもめ」開通

1996.7

デックス東京ビーチ開業

1997.4

フジテレビ移転

1998.4

お台場に自由の女神像設置

2001.7

日本科学未来館開館

2002.12

東京臨海高速鉄道「りんかい線」全線開通

2005.10

首都高速道路公団の民営化

2012.4

ダイバーシティ東京プラザ開業

2023.8

レインボーブリッジ開通30周年



この橋を渡った先には、いつかの、そしてこれからのあなたがいる——。

レインボーブリッジ開通30周年記念オリジナルポッドキャストコンテンツ「RAINBOW RADIO」。過去と未来、あなたとあなたをつなぐ、7つのラジオドラマをON AIR!

レインボーブリッジ開通30周年
特設サイトにて公開中!



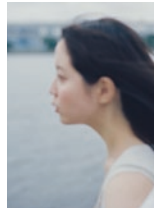
Photography by 濱田英明

写真家。1977年、兵庫県淡路島生まれ。2012年、35歳でデザイナーからフォトグラファーに転身。同年12月、写真集『Haru and Mina』を台湾で出版。2019年、写真集『DISTANT DRUMS』（私家版）を出版。

Episode 1

「夕風にかかる橋」

テレビの情報番組のADをしている徹はアパートがある芝浦と職場であるお台場とを、毎日レインボーブリッジを歩いて行き来している。半年ほど付き合っている楓とちょっとしたことからすれ違い傷心していた徹だが、偶然、橋の途中で足を挫いてしまった広告会社勤務の萌と出会う。芝浦まで一緒に歩くことになった徹と萌は話をするうちに、過去に思い出深いあることでつながっていたことに気が付く。



Episode 2

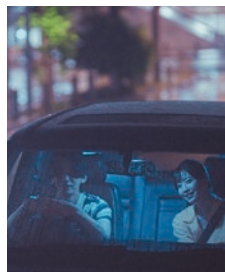
「涙の自由の女神」

女子大生の楓は、お台場生まれお台場育ちのお台場っ子。レインボーブリッジが見えるマンションに母・多江と父・史郎と三人で暮らしている。最近ではテレビのお天気リポーターに挑戦したり、モデルのアルバイトをしたりと、大学生活を楽しみつつも、将来をどうすれば良いか悩んでいた。ある日、思い出の砂浜で幼い頃によく遊んだ大輔と偶然再会する。

Episode 3

「忘れられない言葉」

地方出身の純一は広告会社に就職してかれこれ15年。昔は企画部のエースとして期待されていたが、いまは営業部で課長をしている。部長からは業績について、部下からはやりがいについて相談され、忙しい毎日を送りつつもどこか空虚な気持ちでいる。幼い時に母を失った純一は、地元から鮮魚を運ぶトラックドライバーの仕事で忙しい父・敬三の代わりに祖母によって育てられたが、一度だけ、父は中学生の純一をトラックに乗せて、東京へ来たことがある。純一は会社の窓から見えるレインボーブリッジを眺めて、あの時、いまの自分と同じ年齢の父が言った言葉を思い出す。



Episode 4

「ある夜の奇跡」

日比谷の花屋で働く多江は、同僚の紹介で銀行に勤める史郎と出会う。友達と1回、二人きりで1回デートをしたがどうにも話が盛り上がりせず、次のデートはないと思っていた矢先、今度は海に行きませんか、と誘う史郎。海辺の町の出身の多江は、久しく海を見てなかったな、と懐かしい気持ちになって、渋々2回目のデートに行くことを決める。房総半島へのドライブから首都高を通過して帰る途中、レインボーブリッジに差しかけた頃、雨空に浮かび上がる東京の摩天楼を目の前にして、一か八か、史郎は多江に想いを伝える。



Episode 5

「一人きりの旅立ち」

大輔はお茶の水の大病院で研修医をしている。人のためになることを仕事にしたいと思い、一所懸命に医学部に入り医者になった。研修医もあと1年で終わるが、日本で医者を続けるか、海外のボランティアに参加して医療の乏しい地域で活動してみるか、どう進めば良いかと迷っていた大輔だったが、幼い頃に住んでいたお台場の風景がふと見たくなり、休みの日に立ち寄ってみると、偶然、幼馴染の楓に再会する。楓から勇気もらった大輔は、海外へ旅立つことを決意する。そして日本を離れる日、レインボーブリッジを通過してリムジンバスは空港へと向かう。

Episode 6

「あたらしい道」

起業を決意し会社を辞めた純一は、小さな会社をつくり再びイベント企画の仕事をしている。営業も企画も制作もいまは一人だが、組織に縛られず充実した日々を過ごしていた。そして受注した「花フェスティバル」の仕事で知り合った日比谷の花屋で働く凛と出会い、やがてお台場の自由の女神の前でプロポーズし結婚。2023年8月26日に第一子の啓が生まれた。数年後、凛と、大きくなった啓と一緒に、かつて敬三と渡ったように、車でレインボーブリッジを走っていく。



あなたのレインボーブリッジエピソード

募集

出会い、別れ、プロポーズなど、あなたのレインボーブリッジにまつわるエピソードを教えてください。あなたのエピソードを原案に、「RAINBOW RADIO」のEpisode 7を制作します。あなたの物語が、オリジナルラジオドラマストーリーに!



応募はコチラ